

2 学年課題研究『代表発表会』 審査結果と講評について

1 月 26 日に行われた 2 学年課題研究「代表発表会」では、「iRis Hall」を発表会場として発表者らによるパワーポイントでのプレゼンテーションを行いました。各クラスに Zoom での生配信を行い、会場はもとより、各教室からも質問を受けることができました。発表ごとに講師の先生方から講評・助言をいただいたことで、発表者側だけでなく、聞き手側も今後の課題研究の参考になるものでした。

コロナ禍ということで学年全員が集まった発表会ができず残念でしたが、発表会場、そして各教室での雰囲気はみな真剣に取り組んで、大変有意義な発表会になりました。

講師の先生方からいただいた講評を皆で共有し、課題研究の今後のまとめに生かしましょう。

講師の先生方からの講評	
1 位	<p>0734⑦F 【東北大学災害科学国際研究所(本校 SSH 委員会委員長) 教授 佐藤 健 先生より】</p> <p>テーマ：「都市型津波の脅威と影響」</p> <p>実験計画から、試験体や実験装置の作成、実験の実施、結果の分析まで、費用も時間も要したものと推察します。実験をやりきって結果を出したことに敬意を表します。一方で、物理的な挙動をたとえ精密に把握できたとしても、その結果をどのように防災に活かすかが重要です。発表において避難方法の提案があったように、物理実験のような自然科学と、その結果を人や社会に活かす社会科学の両面から横系を通せるようになることは簡単ではありませんがとても重要です。</p>
2 位	<p>0311⑦H 【宮城大学 食産業学群 食資源開発学類 教授 森本 素子先生より】</p> <p>テーマ：「グレープフルーツを食べた後の味覚の変化」</p> <p>着眼と実証がいずれもよかったです。中学生への調査などは、相当準備が大変だったと思います。よくがんばりました。今後さらに深めるためには、アンケートの作成について工夫をすることが必要かと思えます。アンケートはどうしても誘導的になりますので、盲検やコントロールサンプルを置くことも検討してください。また、今回ピックアップしなかった含有成分についても注意しておかないといけません。果物や植物の成分が味覚を変化させるということは、多数の先行研究があります。味覚の受容体にも着目し、研究を深めていくと、体の生理機能についてさらに疑問が生じ、さらに新しい研究が生まれるでしょう。よい研究というのは、そうやって次々と新しいテーマが生まれてくる研究です。</p>
3 位	<p>0134⑤C 【東北大学災害科学国際研究所(本校 SSH 委員会委員長) 教授 佐藤 健 先生より】</p> <p>テーマ：「頭が赤い魚を食べる猫」</p> <p>曖昧ながらも文から読み解ける状況や状態を絵で表現したり、文節を階層化して意味合いを比較した分析アプローチは大変素晴らしいと思えました。また、このような分析力は、さまざまな問題解決に役立つ普遍的な手法の一つであるとも思えます。一方で、文そのものについては、ものごとを相手に正確に伝える文と、曖昧ながらも味わいや奥ゆかしさのある文は、場合によってはどちらもいいところはあるので、TPO に応じて適切に使い分けることも大事かもしれません。</p>



代表者50名は「iRis Hall」から
パワーポイントで発表し、各教室で生徒た
ちが生配信される発表を聞き、質疑応答を
行っている様子。黒板に映った代表生徒た
ちとやり取りしている様子。
教室からの質問に答えています！！



代表発表会の課題研究のパワポを一部抜粋



普通科の課題研究が2位に選ばれました。
アンケートにご協力いただいたみなさん
ありがとうございました。